

指導の実際

〔授業展開案2〕「構成と論理の展開に注意して読もう」
(検証授業... 3 / 7時)

読むこと

1 単元の指導の実際と手立ての検証 ()

見通しをもつ場面

〔具体的手立て〕
事前アンケート
導入の工夫
学習計画表

「学習計画表」
赤枠内に学習活動の流れを示した

新学習指導要領の指導事項に準拠し、説明的な文章の学習で身に付けさせたい知識・技能を中心に10項目に絞ったアンケートを作成し、実施した。

アンケートの項目から、生徒は今回の単元で身に付けるべき知識・技能をイメージすることができていた。

環境問題に関する資料(朝日新聞のキャッチコピー)を使い、「地球の未来」というテーマを意識させた。

一時間の授業の目標ではなく、単元を通じた共通のテーマを意識することで、生徒はこれからの単元学習の見通しをもつことができた。また、環境問題について身近に感じることができた資料によって、自分の問題として考えてみようという意欲を喚起することができた。

学習計画表で学習活動の流れを確認し、学習計画を理解させた。

単元を通して、どんな目標をもっていつどんな学習活動をするのかを理解できたことで、生徒の学習に対する不安感は和らいだようだった。具体的な活動の見通しを示すこともできた。

身に付ける場面

〔具体的手立て〕
スモールステップによる学習活動
言語活動
教材等の工夫



「スモールステップによる学習活動」

要旨をまとめる活動を細分化し、スモールステップによる学習活動で行えるようにした。

これまで何となく取り組ませてきた活動を、手順を理解して活動させることで、国語が苦手な生徒にも、活動に取り組もうとする意欲を喚起することができた。

位置付けた言語活動

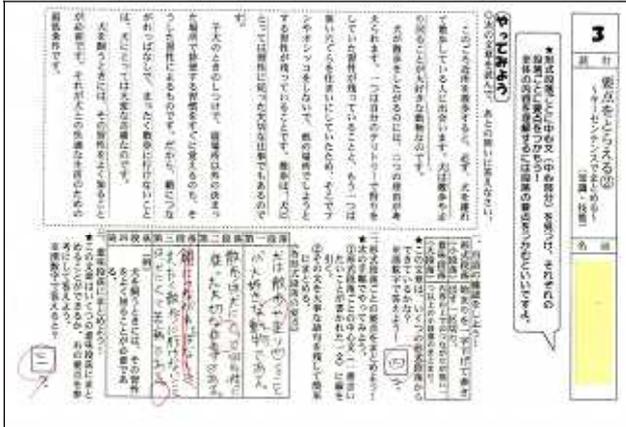
「C 読むこと」(2)ア

〔評価して読む〕

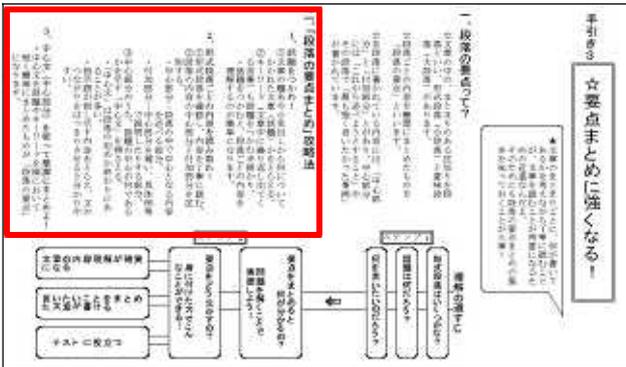
「モアイは語る」で読み取った構成や表現の工夫について意見を交流し、そこでまとめた構成や表現の工夫についての考えを確認し、読みを深めるために意見文を書く。

位置付けた言語活動は、文章の構成や論理の展開に即して内容を読み取る力を身に付けさせるためには有効な活動だった。

の順でワークシートを使って学習活動を行った。生徒はどの段階でもワークシートを手掛かりにして自分の力で活動しようとしていた。



「学習プリント」



「学習の手引き」

赤枠内に要約の手順を示した。

スモールステップによる学習活動に合わせて、ワークシートや学習の手引き、学習プリントを適宜用いた。

ワークシートは学習の流れを目で見えて確認できるように工夫したため、これまで言語活動に消極的だった生徒でもすぐに先生に聞いて解決しようとするのではなく、自分でまずやってみてから質問したり、自分なりに工夫したりする姿が多く見られるようになった。学習プリント「要点をとらえる」の知識・技能プリントを使い、形式段落ごとのキーセンテンスを利用して要約をする練習を行った。生徒は、ここで学んだ方法を、授業の中で活用することができていた。学習プリントや学習の手引きを提示することで、生徒は常にそれを手元に置いて必要なときに利用することができた。学習プリント「要点をとらえる」を、家庭学習用の予習プリントとして利用したが、授業の前に要約の手順を確認することにも使用できたため、生徒の活動への苦手意識を和らげるのに有効だった。授業中の活動にも抵抗なく取り組むことができていた。

振り返る場面

- 〔具体的手立て〕
- 交流
- 学習計画表
- 事後アンケート

「学習計画表」

赤枠内にスモールステップの確認欄を、青枠内に振り返りを記入する欄を設けた。

書き上げた意見文をお互いに読み合わせ、意見交流を基に相互評価に取り組ませた。

お互いに読み合い、評価し合うことで、生徒は自分の意見を振り返ることができた。

学習計画表の振り返りの欄に、活動の自己評価と反省を記入させた。

最初は漠然とした感想を書いていた生徒が、単元の最後には具体的に身に付けた知識・技能について書くことができるようになった。

この生徒は、全ての活動において（できた）と自己評価している。

生徒のコメントより
見通す段階...モアイを通して「地球の未来」について深く知りたいと思った。
身に付ける段階...情報を探し、整理をするとまとめるときに簡単に要点をまとめることができることが分かった。
振り返る段階...アドバイスや良いところを教えてもらえてよかった。

事前アンケートと同じ項目で事後アンケートを実施した。

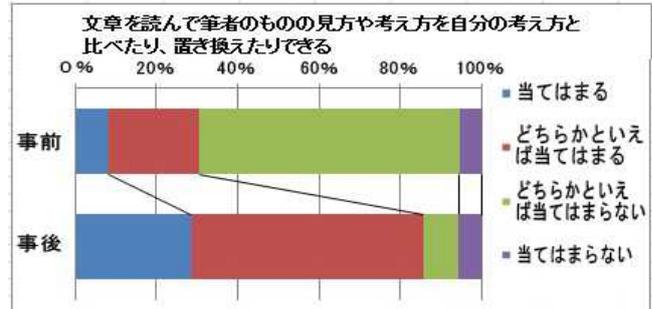
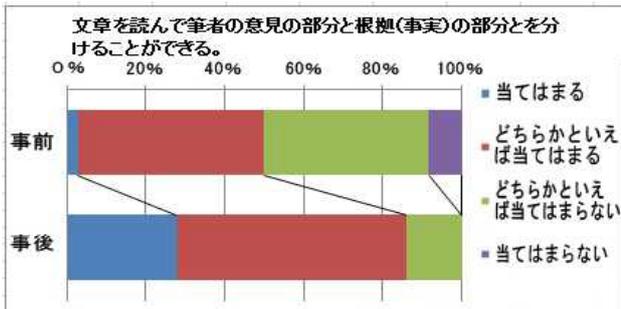
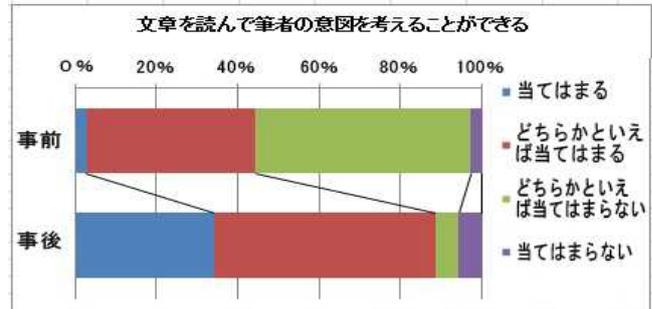
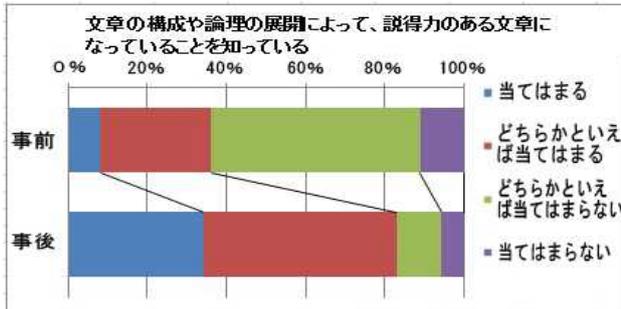
生徒は、今回の単元で身に付けるべき知識・技能について、活動と結び付けて確認することができた。

2 生徒の変容

(1) アンケート結果より

「読むこと」について

- すべての項目で、事前よりも事後の方が「～することができる(分かる)」と答える生徒の割合が増えている。本単元のねらいにつながる項目についての変容は以下のとおりである。
(上のグラフが事前、下のグラフが事後のアンケートの集計結果を示している。)

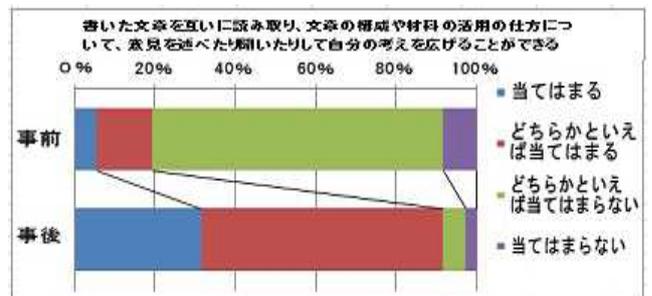
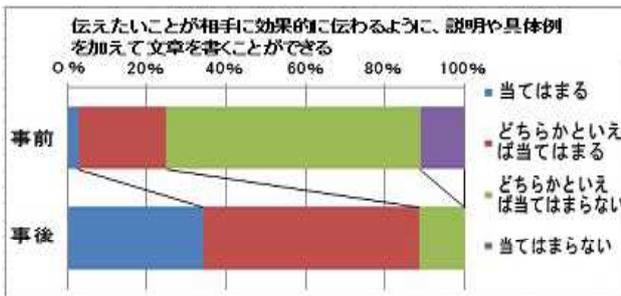
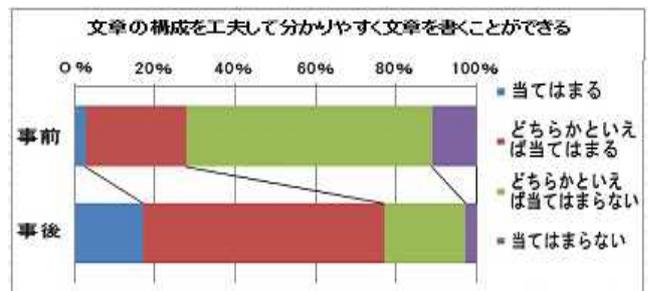
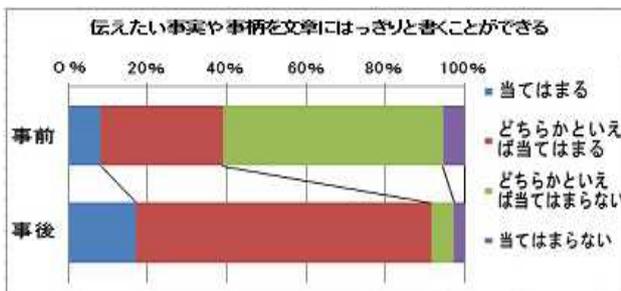


〔考察〕

- アンケート結果から、文章の構成や論理の展開をとらえる力や中心部分と付加部分を読み分ける力等、単元のねらいにつながる項目について、意識化できた生徒がかなりの割合で増えたことが分かる。本単元の学習において、生徒が、構成や論理の展開を読み取るためには、どのような知識・技能を使って、どう読めばよいのかを理解して学習を終えたことがうかがえる。

「書くこと」について

- 「書くこと」の指導事項についても、言語活動を通して身に付くことが期待される項目についてはアンケートを実施した。
本単元のねらいにつながる項目についての変容は以下のとおりである。



〔考察〕

- 言語活動を通して、本単元のねらいとかがわりの深い、文章の構成や表現の工夫といった「読むこと」とかがわりの深い知識・技能が意識化されたということが分かる。このことから、「読むこと」と「書くこと」を相互に作用させながら知識・技能の習得と活用を図る手立てとして、本単元に位置付けた言語活動は、有効であったといえる。

